

大径木（大径材）を無駄なく活かすために

# 大径材から付加価値品を

## トーセンが新工場建設

### ホームセンター向

トーセン（栃木県矢板市、東泉清寿社長）は、栃木県北の同社ピッキングセンターの隣接地で、新しい製材工場の建設を計画している。県内で増加している大径材を活用して、付加価値の高い製品作りを目指す。当面は需要の堅調なホームセンター向けの増産を図るとともに、輸出製品の生産も視野に入れる。来年3月末までの完成、4月以降稼働の予定。「直径30<sup>センチ</sup>以上の丸太が急速に増えているが、大径材で挽く製品の需要は限られている。需要があるから作るだけでなく、新たな需要を作り出すことも重要」（東泉社長）。

新工場の建設予定地は1500坪で、木造の建屋を2棟建設し、製材、乾燥、小割、結束まで行う。導入する機械はツインバンドソー（オーアイ・イノベーション）、自動棧積み機を含めた搬送ライン（鈴工）、小割・モルダソー機（共和キカイ）。建屋を含めた投資額は

循環型林業を推進する上で、新たな課題となっている大径木（大径材）の有効活用。

トーセンは、森林資源の循環利用を推進するため、これまで取り組んできた「母船式木流システム」「ABC材全量出材構想」「エネルギー50」など、様々な事業で培ってきた森林資源フル活用のノウハウを活かし、大径材に新たな需要を作り出す、大径材から付加価値のある製品を生産・出荷できるよう努力しています。



母船式木流システムを活用し、山に近い一次加工工場で、大径材から「フリッチ」と呼ばれる粗挽き材を製造し、製造したフリッチを新たに整備したフリッチ加工工場に運搬します。フリッチ加工工場では、フリッチを再割し、ホームセンター向け製品や、集成材用のラミナ(板材)として出荷します。

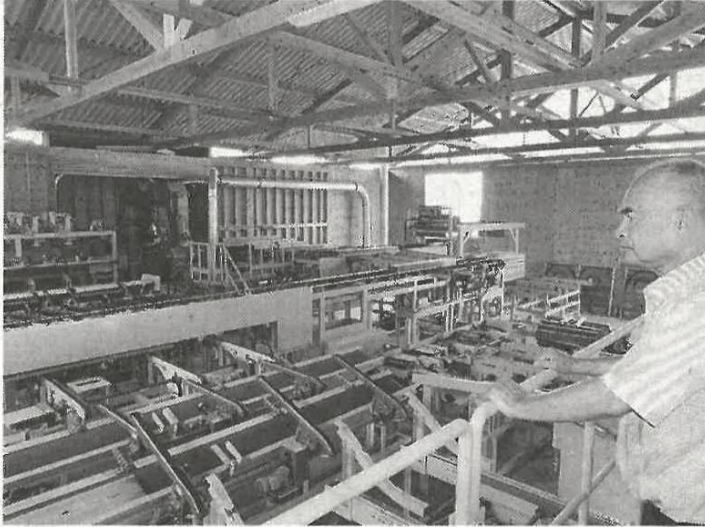
R3.8.20日刊木材新聞より



**フリッチ**

10.5cm角や12cm角など、木造住宅の柱用の材料に見えますが、実は20cm角以上の大きな粗挽き材となっています

今月から本格的に稼働したトーセンの西那須大径材工場。東泉社長(右)は「大径材の付加価値を最大限に引き出す工場にしたい」と語る



新工場には、近隣の同社グループ工場で粗挽きされた2階×215×223ミヤや266×238ミヤなどの太いサイズのフリッチを月

間1500〜1600立方メートル投入し、ホームセンター向けを同500〜600立方メートル、ラミナ原板を同700〜800立方メートル生産して

部分から作った幅広板を輸出する試みも始めており、新工場でその生産も手掛けていく考えだ。

いく。東泉社長は「ホームセンターのバイヤーに工場を見てもらって、オリジナルサイズの製品開発なども提案していきたい」と新需要開拓に意欲を示す。同社では、昨年からの節の少ない側

原板は近隣の同社グループ集成材工場へ搬送し、FJ間柱と集成材の増産につなげる。現在、乾燥がボトルネ

大径材を大量に加工・製材する機械がない工場でも、母船式木流システムにより、既存の製材機械や加工技術をうまく活用することで、大径材の一次加工工場として活躍することが出来ると考えています。



**集成材**

お問い合わせ下さい

**TSC 株式会社 ティ・エス・シー**

〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53  
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349  
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>